

第3節 都市環境を保全・創造するまち

3 生活環境

～環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

<基本計画の目標>

住環境に対する意識の向上を図るとともに、公害のない清潔で快適なまちづくりをめざします。
持続可能な社会をつくるため、市民・事業者・滞在者・行政が役割分担し連携して、地球温暖化対策などの環境保全に取り組みます。
従来の大量生産、大量消費、大量廃棄という一方通行型の社会から、最適生産、最適消費、最少廃棄といった環境負荷の少ないまちづくりをめざします。
市民、滞在者、事業者、市が協働して、廃棄物の発生を抑制し、発生した廃棄物はできる限り再使用または再生利用を推進し、循環型社会の形成をめざします。
廃棄物の焼却量や埋め立てによる最終処分量を限りなくゼロに近づけるゼロ・ウェイスト社会の実現を将来目標とし、減量化・資源化に取り組みます。
市民の利便性を最優先に考え、市民負担の軽減を図りつつ、廃棄物を分別排出しやすい環境を整備します。特に、高齢者や子育て世代などの負担の軽減を図ります。
散乱ごみや落書き防止への取り組みは、市民等の連携協力や協働での取り組みが不可欠なため、今後も協働体制の維持、充実を図ります。

<目標指標:市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、ごみを出さない、ごみを再利用するといった、環境に優しい省資源・循環型社会を実現しているまち」だと感じている市民の割合	75.0%	75.7%	78.4%	79.9%	79.1%	80.0%	81.1%	72.2%	85.0%

<6年間の取組の評価>

【環境部】

第2期基本計画では、「環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち」をめざし、地球温暖化対策としての啓発等事業を実施しました。廃棄物対策としては、循環型社会の形成に向けた仕組みづくりを推進しつつ、鎌倉市の状況を考慮した計画を策定しました。
まち美化については、まち美化統一クリーンデーなどの市民等との連携協力や落書きのないまちづくり行動計画を策定するなど、それぞれ取り組んできました。
これらの取組は、啓発事業が主なものとなっているため、より良い環境のまちづくりには引き続き必要であります。

<今後の方向性>

【環境部】

地球温暖化対策については、再生可能エネルギー等の導入促進など環境負荷の低減に必要な設備の導入促進に取り組みます。
廃棄物対策については、施策の達成状況を評価した上で、ごみ処理基本計画の再構築を行い、その計画に基づき事業を展開します。
散乱ごみ防止対策・落書き防止対策は、必要な見直しを行いながら、事業を継続していきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

・「環境保全活動実践率」が目標値90%に対し91.8%、「ごみの発生抑制実践率」が目標値86%に対し85.5%と高い水準を維持しており、市の広報が成果をあげているといえる。行政、市民、事業者の協力を評価したい。

・これまでの取組の中心は「ごみ問題」と捉えることができるが、6年間で散乱ごみへの対処など努力が感じられる。

・ごみ抑制についての活動が活発であった。これにより、ごみの焼却量は4万トンを切った。ただし、平成27年度のごみ焼却量目標値約3万トンを実現する新しい施策が見えない。

・バイオマスエネルギー回収施設の建設を中止し、ごみ処理について様々な手法を調査・検討していることは評価できる。

・基本計画の中間見直しが行われ、更なる発生抑制の為に今後のごみ有料化・戸別収集策となったのだろうか。まだ市民に周知されていないので自治会では困惑している。

・ソーラーパネル設置に対する助成等、再生可能エネルギーの導入推進に対する姿勢が伺える。

・環境に対する市の取組も環境白書等に具体的に分かり易く説明され、市民にとって理解し、協力しようという気になった。

評価の内訳(委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	3	○	5	△	0		○

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

・今後ともごみ総量の減量化を強力に進めねばならない。家庭系ごみ有料化試行結果の十分な検証に基づく有効性の保証、生ごみの資源化等、取り組むべき課題が山積している。

・ごみ戸別収集モデル事業実施及び家庭系ごみ有料化が計画されている。排出抑制とまちの美化に繋がると期待しているが、収集に時間がかかり、収集コストが非常に増加することを懸念する。

・家庭系ごみの有料化をするのであれば、観光客が出すごみについても有料化をめざしてほしい。

・世界遺産として認定された場合、観光客の増加に伴い、当然ごみや消費されるエネルギーも増加する。市民一人ひとりの努力によるごみの削減以上に増加することも考えられるため、それらの「ごみ」の処理に関する対策を考慮する必要があると考える。観光客が増加すると見込まれる本市にとってのごみ対策は業者を巻き込んだ施策が望まれ、これらに対する対策は「歴史環境」の他、多くの事業と関係しているため、全市を上げて解決に取り組んでいただきたい。

・バイオマスエネルギー回収施設を整備しないで、ごみを減量・資源化する方針が決定されたが、これに伴い、新たなごみ焼却施設の整備等、課題・問題が発生している。今後の廃棄物処理に対する様々な方策が検討されており、期待したい。

・循環型社会の形成を課題に挙げているが、実際、具体的にどのようなことをして「循環型」を実現するのか、実現可能レベルでの計画を示していくことが必要である。

・リサイクル率No.1の座は失ってしまったが、今後もめざしていただきたい。

・市民のごみ抑制実践率に比べ、業者の実践率が進んでいない。市民と同レベルとなるように指導していただきたい。

・ごみ分別やまちの美化に市民はまじめに取り組んでいると思う。さらに強化するならば、海外からヒントを得て、ごみ処理が楽しくなるような施策が欲しい。

・家庭用生ごみ処理機の普及が進んでいない。「ごみ発生抑制実践率」が85.5%と、目標値86%に近い数値であり、ごみの発生抑制に市民が高い意識を持っている。今後ごみの減量化・資源化への取組が望まれる。

・ごみ分別や美化について、市民はまじめに取り組んでいる。さらに強化するならば、外国からのヒントを利用し、楽しみながら進めたい。

・ごみ処理について様々な手法を調査・検討していることは評価できるが、最終的な解決方法については、明確にされていないため、できるだけ早く最終的な計画を明確にしていきたい。

《この分野に関する総括意見》

- ・放射線対策、エネルギー対策が必要となってきた。次期基本計画では実施可能な取組、不可能な取組などを検討するべきだろう。
- ・大量リサイクルは大量消費に繋がるとも考えられるため、一概に良いこととは言えないのではないか？またごみのリサイクルについてもエネルギーやコストのバランスを考慮しながら実施すべきと考える。
- ・この分野はごみ問題に大勢を注いでおり、ごみの問題とCO2発生抑制(エネルギー政策)に特化した方がよい。公害抑制、まちの美化については別の分野(例えば都市景観等)で扱う方がわかりやすい。一方、「生活環境」を広義に捉えた場合には、典型公害(七公害)もこの分野で取り扱うのが妥当であり、整理が必要である。
- ・自然環境・生活環境の保全是鎌倉のみどりのイメージにもマッチするので、今後もごみ問題には市民と一体となって取り組んでほしい。
- ・「消費生活」に関する諸施策のうち、ごみ問題は最重要課題であり、市と市民、事業者との協働の成果が顕著に現れる分野である。